

令和2年 迎春 新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、市内12地区への地区担当職員の配置、地区別計画策定のためのワークシヨップの開催、そして、地区防災計画の策定支援に向けた取り組みなど、未来の荒尾を築く基盤となる地域コミュニティを維持する新たな挑戦に取り組みました。

今後の市政を考える上でも大変有意義な一歩になったのではと思っています。ご協力いただいた市民の皆さまには、改めて感謝申し上げます。

また、「荒尾千潟水鳥・湿地センター」の開館や子ども科学館（あらおキッズドーム）のリニューアルオープン、さらには、南新地地区（旧競馬場跡地など）における新たなまちづくり提案が国土交通省スマートシティモデル事業の「重点事業化促進プロジェクト」に採択されるなど、新元号を祝うかのように明るい話題が多かった1年であったと感じています。

本年も、市民をはじめ、本市に訪される人たちにも「幸福感」を感じていただけるようなまちづくりに取り組んでまいります。

新市民病院の建設については、基本設計が完成し、有明地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供できる設計内容となっております。今後は、総力を挙げて、1日も早い開院を目指します。

次世代を育成する教育に関しては、ICT教育や授業改善など「教育先進都市」へ

明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。日頃より市議会の運営に對しまして、温かいご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

昨年は、大雨や台風など、大きな被害をもたらす恐れのある自然現象が頻発し、気象台の警報の発表に伴い、警戒本部や災害対策本部が設置をされ、避難所の開設が幾度となく行われました。道路冠水や倒木の被害が発生し、災害を意識しなければならぬ不安定な気象状況が続いています。防災への対策として、被災時などにおける情報伝達を行うための防災情報伝達システムの整備が進められています。防災・減災対策の強化については、今まで以上に活発な意見交換を継続しながら積極的に努めてまいります。

新市民病院、(仮称)「荒尾市立有明医療センター」の建設は、昨年11月に建設計画の基本となる「基本設計」がまとまり、その概要が報告されています。平成30年6月に策定した基本計画の設計を進めるうえで、工事費の削減を目的とした構造形式の変更や現場条件などに対応する追加工事によって、開院予定が令和5年度末となりました。創立以来70年以上にわたり人々の命と暮らしを守る拠点として良質な医療を提供し、地域の医療機関と連携しながら、市民の健康やかで安心できる暮らしづくりの一翼を担う医療機関として、1日も早い開院に向けて全力で支援をしてまいります。

向け努力するとともに、長洲町と共同で整備する新学校給食センターについて、事業手法などを検討の上、基本計画などの策定後に具体的な設計を進めます。

南新地地区では、土地区画整理事業による基盤整備や有明海岸沿道路の早期着工に引き続き注力し、有明海の夕陽を活かしながら「ウェルネス拠点」と「スマートシティ」の融合による「幸せ志向」のまちづくりに取り組めます。

また、オリンピックイヤーに地元の荒尾地域で開催される県民体育祭については、「スポーツの感動」が生まれる素晴らしい大会にしていきたいと考えています。

新年度からは、新たに策定する「第6次荒尾市総合計画(仮称)」の下、産学官民の力を合わせて「あらお未来プロジェクト」をさらに推進し、暮らしやすく豊かな荒尾市を目指してチャレンジを続けてまいります。本年も、よろしくお願いたします。

荒尾市長 浅田敏彦

南新地地区(旧荒尾競馬場)につきましては、南新地地区ウェルネス拠点基本構想(素案)が策定され、多くの人々に「あらお」が認知される「まちづくり」が進められます。この南新地地区の開発には、有明海岸沿道路の開通が必須となっており、関係団体の皆さまと共に引き続き協力を行ってまいります。

荒尾市議会は、昨年4月に市議会議員の改選が行われ、新しい議員を含め18人全員がそれぞれの課題を市民と共有し、諸課題の解決に向けて議会という場を通じてしっかりと役割を果たしてまいります。

2020年は干支の始めの「子年」です。子年は、新しい運氣の始まりや繁栄の年とも言われます。皆さまにとりまして、明るく豊かな未来への大いなる可能性が感じられる、始まりの年でありませうご祈念いたしまして、年頭の挨拶いたします。

荒尾市議会議員 安田康則



荒尾市議会議員 安田康則



荒尾市長 浅田敏彦